

長崎居留地の茶再製場と トーマス・ウォートルス

講師：水田 丞 氏（広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授）



幕末明治初期の長崎や横浜、神戸といった外国人居留地では茶再製場という、日本製緑茶を欧米へ輸出するための専用の加工場が存在していました。そこでは中国人職工の監督の下で女工たちが茶葉の再乾燥、風味付け、梱包作業を行い、イギリス、そしてアメリカへと輸出されました。これらはお茶場ともよばれ、海岸沿いに並んだ外国商館の背後に必ずつくられていましたが、現在ではその痕跡すらとどめておらず、忘れられた存在となっています。

また、大阪の造幣寮や銀座煉瓦街を建設したお雇い外国人トーマス・ウォートルスは、日本に滞在している間に茶再製場で用いる機械の設計を行っています。さらに、幕末や明治 10 年代の長崎にも滞在し、居留地周辺で活動を行いました。

今回の講義では近年発見した資料も含めてご紹介します。

【講師略歴】

佐賀県生まれ。九州大学大学院人間環境学府博士後期課程修了。博士（工学）。現在、広島大学大学院准教授。専門は、建築歴史・意匠学。国指定史跡小菅修船場跡保存・整備・活用委員会委員などを務める。著作である、『幕末明治初期の洋式産業施設とグラバー商会—19 世紀の国際社会における技術移転とイギリス商人をめぐる建築史的考察—』（九州大学出版、2017 年）は、第 31 回日本産業技術史学会賞、2019 年日本建築学会著作賞を受賞。ほか多数の論考を執筆。

令和 8 年 9 月 30 日（水）18：00～20：00

会場 長崎歴史文化博物館 1 階ホール（定員 120 人、先着順）

入場料無料、要事前申込

電話（長崎市代表・あじさいコール：095-822-8888 ※会場参加分のみ）

※ お電話で申し込みの場合は、参加場所、お名前、電話番号、メールアドレス（オンラインの方）、年代、公開学習会を何で知ったかをお伝えください。

長崎市役所公式ホームページ（<https://www.city.nagasaki.lg.jp/>）



【オンラインでも受講可（定員 30 人）】

参加ご希望の方は、9 月 28 日（月）までにお申込み下さい。（視聴に伴うデータ通信費用は参加者負担。お申込みはホームページが最もスムーズです）。9 月 29 日（火）中に学習会用 WEB 会議室（Webex を利用）リンク先のアドレスを送信します。

なお、参加は視聴のみで、ご質問やご発言は通信容量の観点からお受けできませんのでご了承下さい。